

施策	82	三遠南信・中京圏の連携推進				政策	8	山・里・街の魅力を高め、交流と連携によるグローバルなまちづくり	
施策主管課	企画課		課長名	松尾 聡	内線	2220	政策担当部長名	企画部長 伊藤 実	
施策関係課名	学校教育課								
重点施策	○	関連計画	・リニア将来ビジョン、三遠南信地域連携ビジョン、						

1 施策の目的	
目的	対象 市民、行政 意図 三遠南信、中京圏域と①共通の課題を認識する。②協力し補完しあう。

2 現状把握

(1) 対象指標、成果指標の状況

対象指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	見込み 28年度
①	住民人口	人	105,691	105,335	104,728	103,947		102,000
成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	目標 28年度
※成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理								
①	三遠南信・中京圏との都市間交流に参加している市民の割合	%	10.2	9.2	9.1	10.0		15
②	三遠南信・中京圏との連携や交流が重要だと思う市民の割合	%	72.1	71.3	69.5	72.1		75
③								

(2) 成果向上に向けての役割分担

主体		役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	23年度 実績	24年度	25年度	目標 28年度
行政	市(国・県)	○地域経営戦略として積極的に交流・連携する。 ○歴史・文化的に繋がり強い三遠南信・中京圏との交流・連携を市民に啓発する。	①三遠南信・中京圏で交流している自治体数	① 33	33		32
			②三遠南信・中京圏の情報発信数(三遠南信クチコミ情報発信回数・月間)				
			③三遠南信地域連携ビジョン推進のため、浜松、豊橋の両市との連携を中心に、三遠南信地域連携ビジョン推進会議の中で主体的な役割を担う	② 2	2		2
主体		役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項			
市民等	市民(個人・事業者・各種団体)	○積極的に交流・連携する意識を持つ。	・三遠南信・中京圏と連携している市民の割合と、団体の数	・住民レベルでの交流組織が、エリア案内冊子の作成などを行っている。 ・浜松、豊橋、飯田の三市の中学生が交流学習会を行っている。			

3. 平成24年度の評価結果

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

<input type="checkbox"/> 計画どおり取り組めた
<input checked="" type="checkbox"/> おおむね計画どおり
<input type="checkbox"/> あまり取り組めなかった
<input type="checkbox"/> 達成できなかった

(2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

<input type="checkbox"/> 進んだ
<input checked="" type="checkbox"/> ある程度進んだ
<input type="checkbox"/> あまり進まなかった
<input type="checkbox"/> 進まなかった

4 平成24年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

【施策全体の評価】

生活圏、経済圏から見ても県境にとらわれない取り組みが重要性を増している。そのような中で三遠南信連携は先進的な政策モデルとして評価されているところであり、三遠南信サミットの開催、情報発信、物産展など交流人口の増に努めた。今後はさらに住民、経済、行政が一体となる組織作りを進め三遠南信連携ビジョンを実現していく。

【事務事業群のテーマ別評価】

<他圏域との連携強化>

[三遠南信及び中京圏との交流推進事業]

・H22に南信州で住民レベルでの他圏域交流組織が発足し、以降遠州、東三河にも同様の組織ができ、H24には三遠南信住民ネットワーク協議会が設立された。これにより行政レベル、経済界レベル、住民レベル、学術レベルで三遠南信連携がなされた。また、ウェブサイト、ロードマップ、地域案内冊子等により情報発信を積極的に心がけている。

[三遠南信地域連携ビジョン推進事業]

・道路、経済、防災等を重要PJとするビジョン実現に向け、推進組織である三遠南信地域連携ビジョン推進会議＝SENAの組織強化を進めている。

<都市間交流の意義啓発・発信>

[三遠南信中学生交流事業]

・浜松、豊橋、飯田の三市は古くから人的・物的交流があり、その歴史を踏まえ地域の将来を創造していく子ども達のまちづくりへの意識を深め、将来三市の地域連携の中核となって活躍する人材の育成を図った。平成24年度は、8月6日～7日に豊橋市へ3市の中学生137人(内飯田市34人)が集まり、「地域防災に中学生はどのようにかわり、はたらきかけていけばよいか」をテーマに意見交換や交流をした。

5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

・三遠南信地域においてさまざまな分野、レベルでの連携が進んでおり、こうした連携を支援できる組織として三遠南信地域連携ビジョン推進会議＝SENAをH26を目途に新SENAへの移行を進める。

・三遠南信中学生交流事業は、浜松市を会場に交流を行うとともに、平成26年度の飯田市当番に向けて準備をする。